住居跡調査状況(平安時代)　2 軒の住居が近接して発見されました。

H2 号住居跡遺物出土状況　1 辺 3.5m の正方形に近い形の住居です。

H2 号住居跡遺物出土状況　カマドの周囲には、土器がまとまって出土しています。

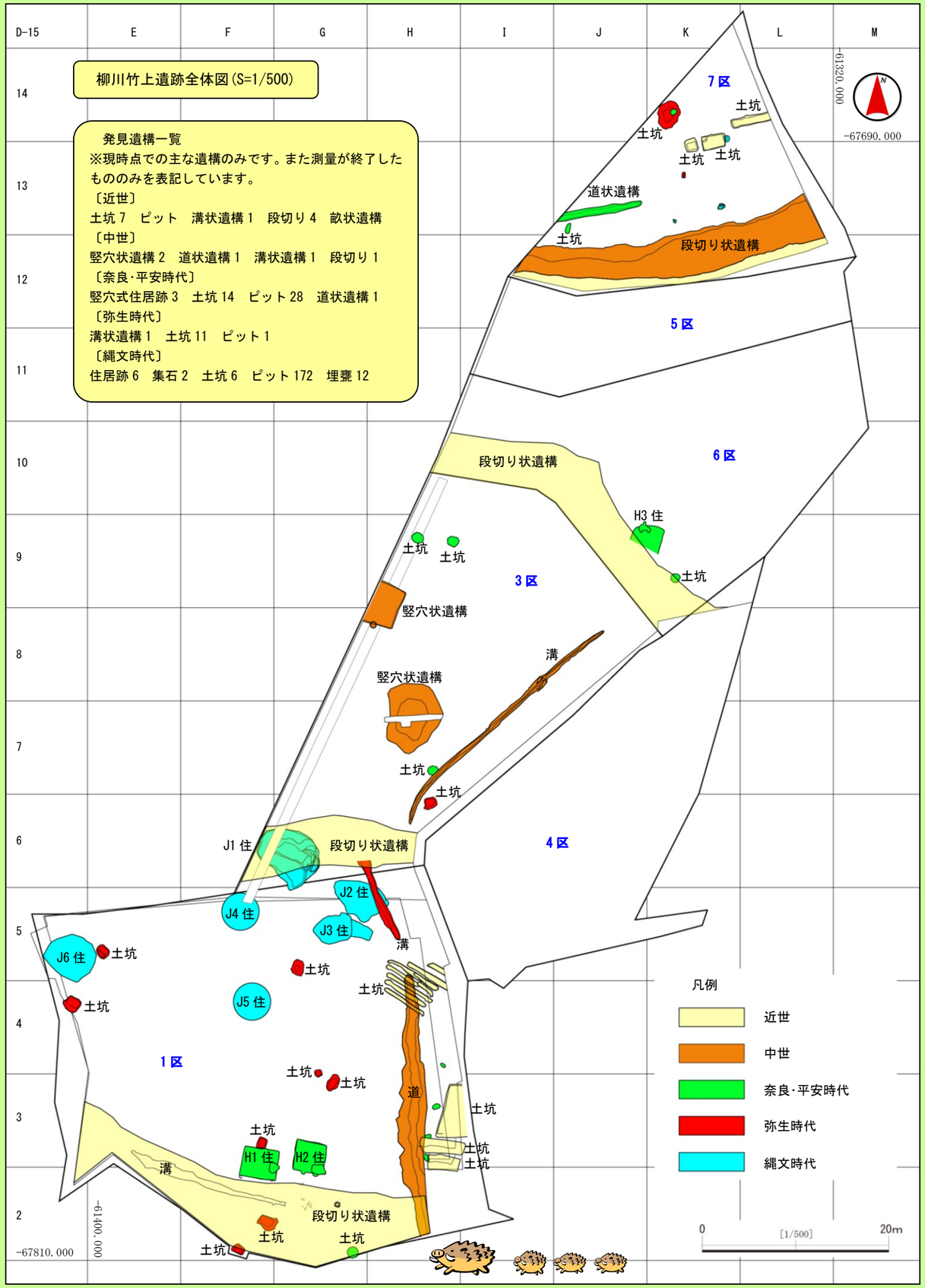
H2 号住居跡遺物出土状況　坏(つき)と呼ばれる土器が床面から出土しています。

H2 号住居跡鋤出土状況　鉄製の鋤(すき)先は、住居の壁に沿うように出土しています。

鋤先(平安時代)　完形の鋤先は、県内でも少なく、たいへん貴重な出土事例です。

H3 号住居跡　手前一部は壊されていますが、カマドと床面が残っています。

H3 号住居跡カマド　袖(そで)石と天井石、煙道には甕を４つほど並べています。



調査区完掘状況(近世～中世)　表土直下では、近世･中世の遺構が確認できました。

耕作地の復旧(近世)　火山灰を埋めて畑地を復旧している様子が確認できました。

土坑(近世)　1707(宝永 4)年に降灰した火山灰を大きな穴を掘って埋めています。

土坑(近世)　溝を並べて掘り､宝永火山灰を埋めています。

土坑(弥生時代)　獲物を捕獲する落とし穴で、深さは約 1.3mあります。